

報告 2

AJAPE での日本語指導

矢沢 悦子（日本ペルー共生協会）
ekyazawa@nifty.com

報告者は、主に留学生を対象に、25 年、日本語教育に関わってきた。大学院で AJAPE の副会長である高橋さんと出会い、その縁で、2009 年から AJAPE で日本語を担当している。AJAPE が委託を受けた「架け橋教室」で、どのように日本語指導の体制づくりをしてきたか、しているかを報告する。

1. 日本語を教える

日本語を教えるには、学習者が誰であっても、また、個人教授かクラスレッスンかを問わず、コース全体の設計が必要である。つまり、授業を始める前に学習者のしたいことやできることなどについて調査・分析し、計画（シラバス、カリキュラムのデザイン、教える内容や教え方の検討、教材や教具の準備、スケジュール作成など）を立て、その上で教え、評価を行うというコースデザインである。

しかし、対象の違いにより留意しておかなければいけないこともある。例えば、国でずっと祖母に育てられ、日本にいる母親に呼び寄せられたばかりの小学 1 年生と、大学進学のために初来日した留学生とで、以下の 4 点について違いを考えてみよう。

- a. 日本語学習の目標 b. 母語での日常会話能力
- c. 母語での学習言語能力 d. 学習方法や学習環境

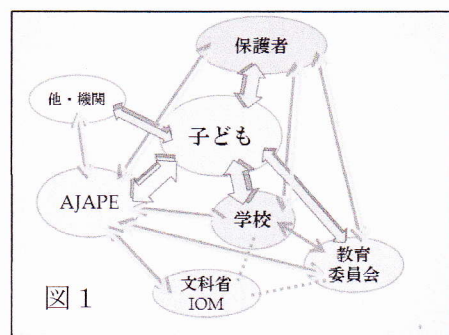
留学生はどれも「ある」のに対し、小学 1 年生の場合、「母語での日常会話能力」を除き（これも留学生ほどには「ない」が）、「不十分」あるいは「ない」と言っていだろう。対象によるこのような違いを念頭に、日本語を教えたほうがいい。

AJAPE の「架け橋教室」で日本語を教えるスタッフは十数名いる。日本語教師養成講座修了生や日本語教育の経験者も少なくないが、子どもたちへの日本語教育は初めてという者がほとんどである。子どもに教えるのは「初めて」であっても、専門性のある体制を作れば教えやすいのではと考えた。それは同時に「架け橋教室」にやって来る子どもたちが学びやすいということにつながる。

2. AJAPE での「架け橋教室」

図 1 は、AJAPE と子ども、保護者、学校、教育委員会、文科省・国際移住機関 IOM、他の人や他の機関との関わりを示したものである。AJAPE が毎月 1 回、英語のできるスペイン語母語話者の有資格カウンセラーによるカウンセリングなどが「他の機関」である。

図 1 の実践の矢印全て、高橋さんがつないでいる。

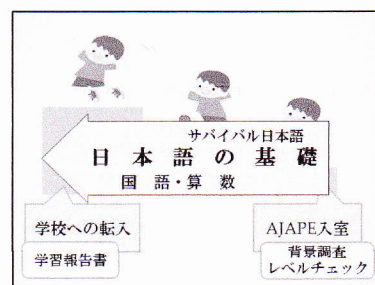


藤田美佳が2003年に論文¹で、「異なるものとのあいだを仲裁・和解・媒介し、パイプ役・橋渡し役として活躍する人」を「メディエータ」としている。高橋さんがまさに「メディエータ」であり、高橋さんあつてのAJAPE、「架け橋教室」である。

AJAPEにやってくるのは、日本語が分からない子ども、日本語は話せるけど教科学習についていけない子ども、日本語がうまく使いこなせず不登校になりそうな、あるいはなっている子どもなど様々である。

文部科学省・国際移住機関の「定住外国人の子どもの就学支援事業」つまり「架け橋教室」事業は、その目的として「日本語等の習得」、「学習習慣の確保」、「公立学校への円滑な転入」を掲げている。

AJAPEの「架け橋教室」にやってくる子どもたちの状況を知り、国の事業の目的を確認した上で、AJAPEでの日本語指導が考えられていることを報告する。



3. 日本語を学ぶ・日本語を教える

1) 教材の選定

子どもが学びやすい、読み書きにつながる、日本の行事や学校の習慣・様子が分かる、指導スタッフが教えやすいということを考慮に入れ、『こどものにほんご』（スリーエーネットワーク）、『絵でわかるかんたんかんじ』（スリーエーネットワーク）を主教材として選んだ。『こどものにほんご』は、日本の公立小学校に転入した5年生のブラジル人の男の子が学校の行事を通して、日本の生活に慣れていくという設定をとっている。中学生には『みんなの日本語』（スリーエーネットワーク）や他のテキストを使うことが多い。

2) 教える内容

主教材で教えていると次のような問題が出てきた。

- ・小学校低学年には不要なものもある。
- ・課によって学習項目の多い少ないがある。
- ・指導スタッフによって取り扱う学習項目に過不足が出てくる。

また、ひらがな・カタカナ・漢字をいつからどのように教えるかのスタッフ間の調整が必要なことも分かった。そこで、項目数を調整し、表記学習やサバイバル日本語、Can-do statementsを入れた「学習項目リスト」を作成した。

学習項目リストは、あくまで参考資料で、子どもによって、加減が必要である。スタッフ間で相談しながら、実際の授業では変更していることが少なくない。『①』が終わったら『②』に進まず、国語学習に入ることもある。漢字学習は、学校の漢字学習の情報を入れながら、学年によって、個人によって、変えている。

¹ 藤田美佳（2003）「ネットワーキングにおけるメディエータの機能—「のしろ日本語学習会」の取り組みをもとにして」『異文化間教育』18、異文化間教育学会

学習項目リスト			
No. 目標	ことば	読み記	かな
1	・挨拶：おはようございます こははらば、まようなら ありがとう、すみません ・授業中の言葉： 分かります、分かりません はい、いいえ いいです、だめです ・数字：1～10 ・名詞：(授業の場) 目、鼻、口、耳、手、足 トイレ トイレ、いいですか 書いてください 分かりますか、いいですか どうぞ、いいですよ	【自己紹介ができる】 1冊『もいす、しんぱく』② ・「わたし/ぼくは」～です ・名前は何、～です ・何歳ですか(年齢) ～歳です ・これ/それは何ですか、～で (目、鼻などを指して確認する) 【数詞による数直線の紹介】 とこ、あそこは～です ・数詞：トイレ、電線など	【50音図を覚える】 ・つらかな(授業)：聞く、書く 【50音図を見ながら】

学習項目リストと学習期間	
『こどものにほんご①』No.1～No.42	
ひらがな ～No.12	
カタカナ ～No.16	5回/週で 2ヶ月余
漢字 小学1年80字	
『こどものにほんご②』No.43～No.97	
漢字 小学2年160字	
小学3年70字(200字の内)	5回/週で 3ヶ月弱

3) 教え方

教え方で注意が必要なのは、日本語学習に終わらない、教科学習につなげるということである。日本語を教えながら国語の学習を取り入れる、算数や数学の学習に日本語を取り入れるようにしている。ひらがなが読めるようになったら国語教科書の音読を行い、子どもによってはドリル教材を入れることもある。

4) 教材・教具作り

読む、書くなどの技能を、統合的に、かつ学齢に応じて指導していくには、教材作りが欠かせない。子どものレベルや学年にあうように、学習の動機づけや習慣づけになるように、プリントを作っている。また、絵や写真を使ったカード、漢字カードなどを作っている。

遊び道具も教具となる。けん玉、だるま落とし、縄跳び、折り紙などで、子どもたちは、遊びながら、順番やルールを守る、後片付けをする、習った言葉を使うといった学びの機会を得ている。

5) 授業担当表の作成

授業担当表は、子どもの日本語レベルだけでなく、子どものやって来る時間と帰る時間、送迎スタッフが車で迎えに行き、送っていく時間、指導スタッフが AJAPE に来られる曜日と時間帯、教室のスペースを考えて作っている。

新規にやってくる子どもが続く場合は、毎週のように担当表を変更することもある。

6) 事前調査・評価の導入

・入室時のレベルチェック

面談時、子ども自身に日本語で質問したり、レベルチェック・テストをしたりしておおまかな把握をする。その他、子どもの学齢、AJAPE での学習可能な時間などで、指導の方向を決めていく。

・学校への編入時の「チェックリスト」

AJAPE での支援を終え、学校へ転入するとき、あるいは支援は続くが、AJAPE での時間を減らし、学校での時間を増やすとき、日本語、算数・数学の習得状

況、学習状況をチェックする。「チェックリスト」は、豊橋市教育委員会のものもとに AJAPE での様子が伝えられるよう変更したものであり、生活習慣や学習態度も書いている。このチェックリストは学校への学習報告書として使用する。

・外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント (DLA)

小学校、中学校における、日本語指導が必要な児童生徒を対象にした日本語指導の新たな制度が、2014 年 4 月に施行された。「特別の日本語教育課程」、「特別の教育課程」による日本語指導である。この課程で、児童生徒の日本語能力をはかる方法として、文科省が東京外国語大学に委託し、開発したのが、DLA である。カードや本など評価キットを使って、話す、読む、書く、聴く能力を子どもと向き合い、対話を通して、評価する。

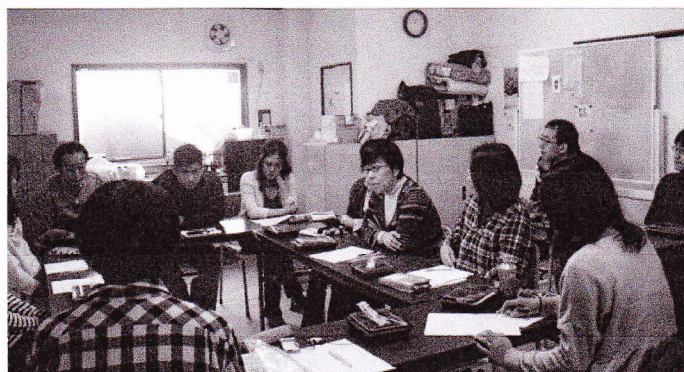
AJAPE で DLA<話す>と<読む>を 2 人の子ども (小 1、小 2) に行ってみた。試行してみて以下のことが分かった。

- ・DLA を行うには「理論編」を十分に理解し、何回も行い、実施方法に慣れる必要がある。
- ・子どもたちに、日常語彙が少ない、内容が豊かでまとまりのある話や説明、理由などが言えない。

7) 教師間の情報交換

教師間の情報交換は、引き継ぎノート (子ども一人に一冊用意し、担当した指導スタッフが学習内容や子どもの様子を毎回書き込む) や、月 1 回の定例会議で行っている。会議では、指導スタッフが子どもの状況や様子を伝えあうだけでなく、教え方や接し方の悩みを相談する、経験を述べる、アドバイスをする場ともなっている。

学校、教育委員会、IOM や他機関などからの情報、AJAPE の事業予定が伝えられる。また、指導スタッフがその月に参加した研修会、学会等があれば、その報告も行われる。



< 定例会議 >

以上が AJAPE での日本語指導についての報告である。

報告3

教室コーディネーターとして

高野 菜穂子（日本ペルー共生協会）
nahocotakano@gmail.com

報告者は首都大学東京大学院で教育学を専攻した。AJAPE をフィールドワークの対象として調査を行った。大学院修了後、AJAPE に入り、今年で5年目になる。「架け橋教室」の教室コーディネーターとして、子どもたちの学習環境を整えるために、これまで行ってきたことを報告する。

教室コーディネーターは、「架け橋教室」に入ってきた子ども一人ひとりの様子を見ながら、保護者、小・中学校、大和市教育委員会指導室と連携をとる。具体的には、次の4つのことを行っている。

1. 学習報告書の調整、提出
2. 学年だよりの掲示
3. 子どもの様子を学校と共有
4. 保護者へのはたらきかけ

1. 学習報告書の調整、提出

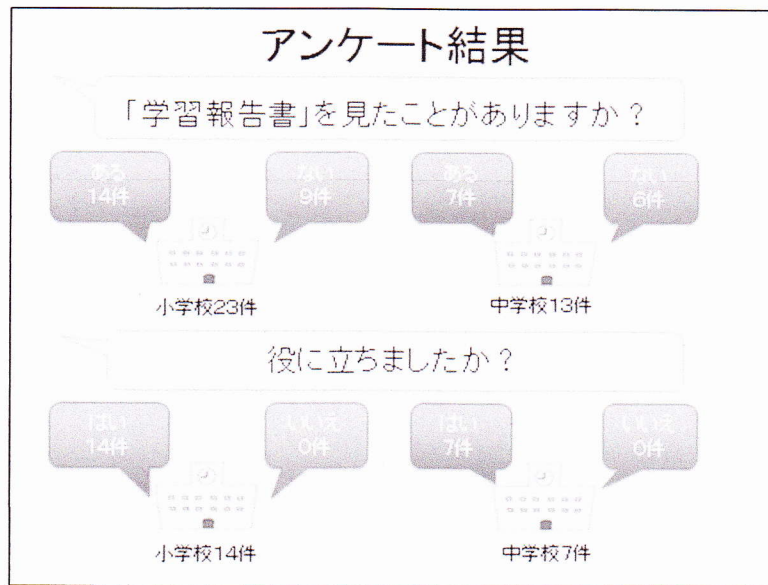
AJAPE では、子どもと学校をつなぐために、日本語学習や学習意欲などの状況を記した「学習報告書」（資料①）と「チェックリスト」（資料②）を、子ども一人ひとりについて作成し、学校へ提出している。作成、提出は、AJAPE での支援をやめて学校に戻したり、AJAPE での支援時間数を減らしたりしたほうがいいのでは、と学校あるいは AJAPE が考えたときである。支援開始後、2、3ヶ月、あるいは6ヶ月後が多い。

「学習報告書」には、子どもの背景や学習期間、日本語の学習内容と学習に使用した教材名を記入する。「チェックリスト」は豊橋教育委員会が作成したもの¹を、AJAPE の実情にあうよう一部変更したものを使用している。AJAPE では、指導スタッフと1対1で、あるいは子ども2、3名をスタッフ1名で指導し、スタッフは複数のことが多い。「チェックリスト」の記入は、担当するスタッフ1名が記入し、他の担当者が目を通す。「学習報告書」「チェックリスト」ともに報告者が最終調整し、矢沢さん、高橋さんが目を通したのち、送迎スタッフが子どもの学校に届ける。

2014年7月、大和市小中学校の教師（外国人児童生徒担当者、担当経験者）を対象にアンケートを行った。（当報告書34～42ページに掲載。）そのアンケートの中に「学習報告書」についての項目があり、以下はその結果である。

①「学習報告書」を見たことがありますか。役に立ちましたか。

¹ 豊橋市教育委員会「外国人児童生徒教育資料 指導参考資料集 チェックリスト」
<http://www.gaikoku.toyohashi.ed.jp/shidou/shidou.htm>



②どのように役に立ちましたか。

小学校

- ・ 個別面談時に使用
- ・ 日常の学習と生活の支援（４名）
- ・ 昨年度のひきつぎ
- ・ 現在学習した事や児童の実態が分かり、支援に役立てられた。
- ・ 子どもの実態（日本語能力）がわかり、次なる指導にとっても役立った。
- ・ 以前ある児童が AJAPE でお世話になった後、本校に転入してきた。その際、学習進度などが詳しく書かれていたので役立った。
- ・ 学校での学習指導をどこから行うべきかの指標に使ったり、保護者の方との面談の資料に使った。
- ・ 児童、保護者の地域社会との交流促進が難しい中、計画実践されていることがわかった。
- ・ 各児童の既習内容を知ることで今後の学習や関わり方の方向性が見えてくる。
- ・ 各担任が目を通し、教科指導や学習支援に役立てた。

中学校

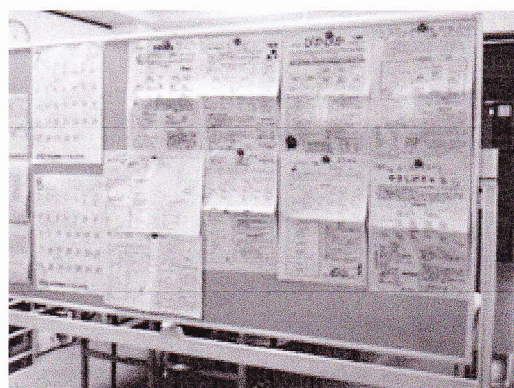
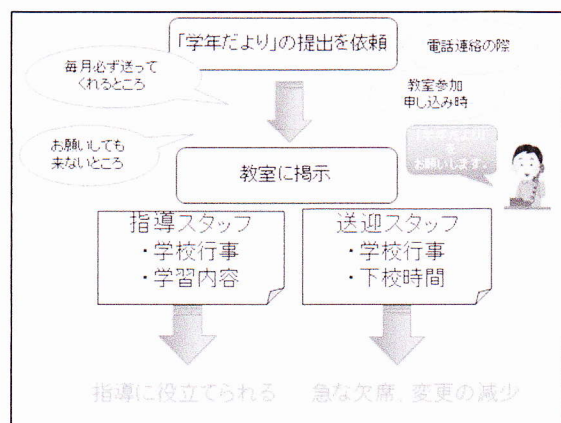
- ・ 生徒の能力や学習理解度がわかった。
- ・ 出席状況、学習理解度。
- ・ 日本語の習熟レベル（様子）が良くわかった。
アハペとの連携がスムーズにできた。
- ・ 日本語が不十分な生徒の日本語、漢字のサポートをして頂いた際、学校側がどのようなサポートを引き続きできるかや、本人の日本語の力がどのくらいかを知ることができ、学校での指導の方向性を決めるのに役立った。
- ・ 生徒が日本語や教科の勉強をどの程度わかっているのかを把握することができ、学校側からの支援体制を整えやすかった。

2. 学年だよりの掲示

学年だよりの提出を各学校へ依頼し、届いたら AJAPE の教室内に掲示している。

依頼は、学校に電話連絡する機会をとらえて、あるいは学校から AJAPE での支援依頼の申し込みがあった時に伝え、子どもや送迎スタッフ経由で届く。こちらからお願いして、毎月月初めに送ってくれるところと、お願いしても来ないところがある。毎月大体半数の学校からは届く。

AJAPE の教室内に学年だよりのあることで、指導スタッフは学校行事や学習内容がわかり、指導に役立てることができる。また、送迎スタッフは学校行事や下校時間がわかり、急な欠席や時間変更にあわてることが少なくなった。



<AJAPE 教室内に掲示された学年たより>

3. 子どもの様子を学校と共有

子ども一人ひとりの学習上の課題や様子などを、学校の担当の先生と AJAPE の指導スタッフと共有するつなぎ役をしている。学校からの情報をスタッフに伝え、子どもの指導や子どもへの接し方などを役立てている。

学校の先生と報告者として問題を共有し、良い方向につなげた例を以下2件報告する。

ある学校から「Aさんは計算問題はできるけど文章問題が難しいようだ」と連絡を受け、AJAPEで文章題をやってみた。そして「問題文をこれまでにAさんが習った言葉と表現にしたら解けた」と報告したことがある。また、「B君は掃除に参加しない」との報告を受けたときは、B君と母語で話し合い、「B君は母国で掃除のシステムがなくどうしていいかわからないそうだ」と伝えたこともある。

学校の担当の先生が「連絡ノート」を作り、子どもが毎回持参することがある。「連絡ノート」には、学校の先生から「～指導で手をかけられなかった。AJAPEでお願いしたい」「音読をさせてほしい」「保護者に～を伝えてほしい」などの伝言があることもあり、AJAPEでは担当の指導スタッフが対応し、「連絡ノート」に記述する。

学校と共有したことは、報告者が AJAPE の指導スタッフあるいは送迎スタッフと共有している。方法としては、スタッフに直接口頭で伝えたり、子どもの引き継ぎノート（AJAPEで各自用に作成）に記入しておいたり、毎月1回の定例会議で伝えたりしている。

4. 保護者へのはたらきかけ

子どもの教室での行動を見て、家庭での様子や保護者の考え方を聞き、できれば教室での様子を共有した方がよいと思う場合がある。例えば、授業中急に立ち上がって歩く、突然大きな声を出す、床に寝転ぶなどである。このような場合は、先ず担当スタッフ間でどのように対応したらいいか話し合い、それでも状況が変わらない場合、保護者にその状況を説明し、AJAPE に来てもらっている。「授業見学」の場合、「話し合い」の場合とある。以下、具体例を報告する。

「授業見学」

子ども：小3で呼び寄せのAくん

状況：落ち着きがなく10分座ってられない。

対応：見学に来たのは母親。家庭でもじっとしていないことが多いとのこと。先ず、学校の授業は45分であることを母親に伝え、そのことを母親からAくんに直接母語で話してもらった。また、「家で、食事しているときは座ってられるようにしよう」と提案した。

呼び寄せの場合、母国で祖父母が育てているケースが多く、しつけに困っているという保護者は少なくない。

「話し合い」

子ども：小4で呼び寄せのBさん

状況：「勉強したくない、アハペに来たくない」と送迎スタッフが迎えにいった連れてくるのが一苦労することが増えた。

対応：Bさんと呼び寄せた継母に相談した。家庭でも手に余ることが少なくないこと、継母はAJAPEに通わせたいと考えていることが分かった。実父、継母に教室に来てもらい、Bさんに今何が必要か、今後どうしたらいいのかを、Bさんも含め話し合ってもらった。

「授業見学と話し合い」

子ども：小3で呼び寄せのCくん

状況：授業中に突然大声を出す、教室の仲間をたたく、噛む、興奮するとセルフコントロールが難しい、休み時間に床を這い続ける。

対応：母親に授業を見てもらった。母親いわく家でも同じ。でも離れて暮らしていたので今親子関係を築いているところで、厳しく言うのはなかなか難しいということであった。その後もあまり変化が見られなかったため、AJAPEで行っているカウンセリングを受けられるよう調整した。カウンセリングは、母親が自分の子育てを見つめ直す機会になったそうだ。

母国、日本、家庭、学校、教室など様々な空間を移動する子どもたちは言語面、心理面、いろいろな問題を抱えるケースが少なくない。そのような子どもたちの成長を、子どもと関わっている人々、機関などと連携をとりながら、見守っていくことは、必要なことであり重要なことである。

以上、教室コーディネーターとしての報告である。

<参考資料①>

学習報告書

2014 年 7 月 11 日

大和市長 〇〇〇〇〇 小学校長

特定非営利活動法人 日本ペルー共生協会(AJAPE)

学 習 報 告 書

下記の児童・生徒に対し 特定非営利活動法人日本ペルー共生協会(AJAPE)で行った
学習支援の内容をご報告いたします。

氏名	〇〇〇〇〇
国籍	中国
家庭内使用言語	中国語
支援期間	2014 年 4 月 14 日～現在

日本語は以下のテキストを使用して指導しました。

- ・『こどものにほんご 1』(ジーエーネットワーク、2002) …全 13 課終了。
- ・『こどものにほんご 2』(同上、2002) …全 17 課のうち 2 課終了。

以下の学習内容を指導しました。

- ・自己紹介できる
- ・知らないもの、分からないものについて質問できる、答えられる
- ・場所が尋ねられる、案内できる
- ・人や物の様子・状態が言える、好き嫌いが言える
- ・何月何日何曜日が言える、自分の行動が表せる
- ・時間について質問できる、答えられる
- ・何時に何をするか言える
- ・誰が、いつ、誰と、どこで、何をするか/しないかが言える、質問できる
- ・行動の呼びかけが理解できる、2つのことを同時にする表現を使って話せる
- ・友だちと好きか嫌い、上手か下手かの話ができる
- ・人、動物、物の所在が言える
- ・いくつあるか、何回行るか言える、欲しいものが言える
- ・過去の出来事を話すことができる、過去の出来事について質問できるし、答えられる
- ・自分のしたいことやしたくないことが言える、自分のする・しないことの理由が言える、比較表現を使って話せる
- ・物のやりとりについての事実を伝えることができる、簡単な依頼ができる
- ・今何をしているのか言える、人がどんな物を身につけているか言える

- ・『絵でわかるかんたんかんじ 80』(同上、2001)

…小学 1 年学習漢字 80 字のうち 30 字指導

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十
目 耳 口 手 足 上 下 中 山 川
水 火 虫 石 右 左 木 林 森 田

- ・『毎日ドリル小学 1 年のことば』(学研社)
- ・小学国語教科書 (1 年) : 音読の練習を行いました。

チェックリスト (豊橋市教育委員会で作成、一部 AJAPE で変更) を添付いたしました。
ご参照ください。

<参考資料②>

チェックリスト

チェックリスト(日本語・生活習慣など:小学校低学年用)

NPO法人日本ペルー共生協会

児童名:

記入日: 2014年 7月 11日(金)

1. 日本語指導

<聞く>

1	「立ってください」「書いてください」等の簡単な指示が理解できる。	1	できる	できない
2	短文2〜3文で構成された簡単な指示内容を、ゆっくりとした速さなら聞き取ることができる。	2	できる	できない
3	短文2〜3文で構成された簡単な指示内容を、普通の速さで聞き取ることができる。	3	できる	できない
4	簡単な内容であれば、平易な言葉で言い換えた説明を聞き取ることができる。	4	できる	できない

<話す>

1	「おはようございます」「さようなら」などのあいさつができる。	1	できる	できない
2	学習した単語を使って、自分の意志を表現できる。	2	できる	できない
3	簡単な内容であれば、単文を使って、自分の意志を表現できる。単語レベルになることが多いが	3	できる	できない
4	助詞を適切に使って、口頭で表現できる。助詞は抜け落ちることが多い	4	できる	できない
5	正しい動詞の活用で、口頭で表現できる。(ほぼ)	5	できる	できない
6	複文(〜から、〜とき、名詞修飾等)を使って、自分の意志や相手に伝えるべき内容を口頭で表現できる。未指導	6	できる	できない

<読む>

(発音)

1	ひらがなを1文字ずつ音読することができる。	1	できる	できない
2	特殊音(撥音・促音・拗音・濁音・長音等)を含んだひらがな単語を音読することができる。(ほぼ)	2	できる	できない
3	カタカナを1文字ずつ音読することができる。(ほぼ)	3	できる	できない
4	撥音・促音・拗音を含んだカタカナの単語を音読することができる。ゆっくりなら	4	できる	できない
5	単語のまとまりを意識して、文を音読することができる。ゆっくりなら	5	できる	できない
6	1年生レベルの漢字を音読することができる。(80字のうち、30字程度)指導済み	6	できる	できない
7	2年生レベルの漢字を音読することができる。(160字のうち、字程度)	7	できる	できない

(読解)

1	単文を読んで理解できる。	1	できる	できない
2	複文を読んで理解できる。	2	できる	できない
3	平易な文で構成された、ある程度まとまった内容(日本語学習テキスト程度)の文章を読んで理解できる。	3	できる	できない
4	書かれている事柄の順序を読んで理解できる。(小1、2年の教科書)	4	できる	できない
5	書かれている事柄の場面の様子を読んで理解できる。(小1、2年の教科書)簡単な内容なら	5	できる	できない

<表記>

1	ひらがなを1文字ずつ表記できる。	1	できる	できない
2	特殊音(撥音・促音・拗音・濁音・長音等)を含んだひらがなの単語を表記できる。時々がえり	2	できる	できない
3	カタカナの単語を表記できる。常に復習していないと忘れてしまう文章がある。	3	できる	できない
4	小学校1年生の漢字を表記できる。(80字のうち、30字程度)指導済み	4	できる	できない
5	小学校2年生の漢字を表記できる。(160字のうち、字程度)未指導	5	できる	できない